法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

渡部亮先生の定年退職をお祝いして

SUZUKI, Yutaka / 鈴木, 豊

(出版者 / Publisher)
法政大学経済学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
経済志林 / The Hosei University Economic Review
(巻 / Volume)
85
(号 / Number)
3
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
4
(発行年 / Year)
2018-03-23

渡部亮先生の定年退職をお祝いして

経済学部長　鈴　木　　豊

渡部亮先生は，東京都国立市のご出身で，（地元の）桐朋高校をご卒業後，高度経済成長の風を受ける形で（やはり地元の）一橋大学経済学部に入学，1970年に一橋大学経済学部を卒業されました。大学院に進学することもお考えになったそうですが，給料をもらいつつ専門的に勉強させてくれるということで，当時注目を集め始めていたシンクタンクの野村総合研究所に就職を決められたとのことです。

入社後は，社費留学制度でロンドンビジネススクール修士課程に２年間留学され，以後ずっと国際ビジネスの最前線を歩んでこられました。野村総合研究所ワシントン支店長，経済調査室長，投資調査部長，英国現地法人ノムラ・リサーチ・インスティテュート・ヨーロッパ社長，そして同研究所研究理事（役員待遇）という「華麗な経歴」がそれを物語っています。そして，1999年に，いちよし経済研究所代表取締役社長に就任された後，2002年に本学教授に就任されるわけですが，当時のスカウト人事の際，絵所座長が「彼は社長ですから」と言われていたのを私も覚えています。

法政大学就任後は，国際ビジネスの最前線を歩んでこられたキャリアを活かし，2005年の現代ビジネス学科開設へ向けての設置準備において中心的役割を果たされ，学科の設置趣旨も含め，構想の多くに貢献されました。先生は実際のビジネスとアカデミックな経済学のブリッジとなる学科を創るという当時の設置趣旨に適任の人材であったと思います。以後，現代ビ

ジネス学科の教授として，「国際ビジネス論」「国際マーケッティング論」を中心に担当してこられ，さらにまた，米国に6年間，英国に7年間の在住経験で培われた英語力を生かして，2016年度開始の新カリキュラムの英語授業「Japan and the Global Economy」の担当も快諾して下さりました。私は当時，執行部主任で授業編成をしていましたので，とても助かりました。感謝申し上げます。

渡部先生の研究のご専門は，あえて限定的に言えば，「国際ビジネス論」であり，特に金融とITに興味を持っておられますが，ビジネス関連のテーマであれば，経済や経営にとどまらず，歴史・社会・言語・心理・技術など，あらゆる問題に関心を抱いていらっしゃるとのことです。

私も今回の巻頭言の執筆に当たり，先生の『エクイティと受託者責任の歴史的本質』（第1～5回）（野村総合研究所 Fund Management）という連載論文を読ませていただきましたが，アングロサクソンの発明品である株式会社の本質の話やコーポレートガバナンス関連の話などを，経済学や経営学にとどまらず，歴史的視点や法律論的な解説も交えながら，総合的な方法で，深く分析されていました。「受託者責任（fiduciary responsibility）」の話とか，特に，歴史的・法律論的な切り口が勉強になりましたし，私の知っている学術論文の数学的モデルの「歴史的背景」などもよく分かりました。

もう一つ，ユーロ圏についての『ユーロの来し方と行く末』という論文は，私自身，研究関心があることからも，興味もあったのですが，歴史的経緯・現状・行く末を，とてもこなれた形で丁寧に論じておられ，納得しながら読ませていただきました。

こうしてみますと，企業統治やユーロ圏，そして，産業組織的な話など，私は渡部先生と興味を抱く対象のテーマはかなり近いと思いました。ただ，渡部先生は，シンクタンクで国際ビジネスの先端を歩まれてきたキャリアを反映した総合的な（経済，経営，歴史，法律論などを駆使した）方法で，私は大学院でトレーニングを積み，ずっと学者の道を歩いてきましたので，

アカデミックツール（私の場合は，数学的な理論モデル）を使って分析する方法で，類似の問題に別々の方法でアプローチしていると感じた次第です。

広報誌『法政』2014年度３月号での記事によりますと，渡部先生は,「トップを目指すより，多様な経験を重ねたい」との見出しで,「中学時代，人間にはトップを志向するタイプと，さまざまな経験をすることに喜びを見出すタイプの2つがあるのではないかと考え，自分は後者らしいと気づいた。米国や英国の駐在員時代は，仕事とプライベートを含め，世界中を旅行し，その後は大学で研究と教育に携わっているので，まさに最初の思い通りの人生を歩んでいる。」と書かれています。

何を隠そう，私も就職の時には，某シンクタンクに内定をいただきながら，結局は大学院進学を選びましたので，同じ意思決定問題に直面し，同じ問題関心を持ちながら，実際に選択した意思決定や分析手法が対照的に異なることになります。そうすると，上の「２つのタイプ」についても，確かに，私は後者のタイプよりは前者のタイプなのかもしれません（笑)。こうした感想を抱かせていただくのも，巻頭文を書かせていただくときの妙味かもしれません。

渡部先生は，近年のご研究で，情報通信技術（ICT）の発達によって，自動車ライドシェア企業のUber（ウーバー）のように，利用者がモバイル（スマホ）でネットにアクセスして車をシェアし（共同利用し)，評判履歴を活用しながら，ランダムマッチングでも取引の信頼性を高める仕組みが広まってくると,「所有」の伝統的な意味が変わってくる可能性があるという「シェアリング・エコノミー」についても分析されています。ビッドコインの普及は，やはり金融面での市場の取引コストの下落（信頼の問題を考えると，むしろ，取引コストの増加）ですので，伝統的な組織的取引である銀行の預金システムにも影響を及ぼすでしょう。これらは，とても興味深いテーマだと思います。さらにまた，マルクスの「万国の労働者よ，団結せよ！」をもじって,「万国の経営者よ，立ち上がれ！」をスローガン

に，政治的解決が難しい問題を，ビジネスの側面から解決する道を探る本を英語で出版企画中とのことです。ただ，最終講義では，Amazon, Apple, Google, Microsoft など，巨大ビジネスが政治家と結託する形で，独占禁止法の適用を逃れようとする場合には，より公益となる形での規制（Regulation）しかないと，アングロサクソン型資本主義の下での巨大ビジネスと政治の癒着（結託）と，その規制という現状分析についても，述べられておりました。こうして，ホットイッシューを常に追い続けていらっしゃる一方で，汎用的な教養や雑学知識も豊富で，海外に気の置けない外国人の友人を10人以上持ち，料理も大変お得意とのこと。

渡部先生，退職後も「自由」「独立」「安定」という三つの価値を同時に達成しつづけ，多様な経験をさらにつみ重ねた，充実した人生を謳歌してください。